



しおかぜ通信

学校教育目標「自ら学ぶ子供」

八代市立郡築小学校
校長 村嶋 博史



R7.11.14 No,27

郡築小ホームページ

球磨酪農農業協同組合に出前授業をしていただきました(食育)

11月10日(月)、球磨酪農農業協同組合の方においでいただき、「牛と牛乳とヨーグルト」をテーマに、「乳製品ができるまで」と「牛の一生について」についてプレゼンテーションしていただきました。これは、本校が推進している「食育」の一環として依頼したもので、今回は3年生が学びました。

子供たちは、毎日牛一頭から200mL紙パック150本分の乳が取れることや、出産後に乳を取ること、



生まれた赤ちゃんがオスだった場合は肥育農家に引き取られ、肉牛として育てられることなどを学びました。

子供たちにとっては、毎日給食で飲んでいる球磨酪農の牛乳をはじめ、牛の命をいただくという食に対する感謝心を抱く、とても有意義な時間になったようでした。

また、3年生では、今後この学びを人権学習と結びつけることで、実社会の課題解決に繋げ、学習に対する主体性を高めていく予定です。

球磨酪農農業協同組合様のご尽力に心より感謝申し上げます。

「おにぎりパーティー」を開いていただきました(食育)

11月11日(火)、(米作りを体験した)3・4年生は、「おにぎりパーティー」に招かれ大喜びでした。これは、郡築地区のJA青壮年部並びにJA女性部の方々が企画・運営されたものです。

当日は、朝から来校され、大釜でご飯を炊いたり、大鍋で地元でとれたトマトを使つたてご汁を作ったり、鶏の唐揚げを揚げたりして、子供たちがやって来るのを待たっていました。そして、やって来た子供たちにおにぎりづくりを体験させられた後に、「おにぎりパーティー」を始められました。

自分たちが田植えをし収穫したお米の味は格別だったのでしょう、子供たちはほとんど残すことなくもりもりと食べていました。

JA青壮年部並びにJA女性部の方々のご尽力に心から感謝いたします。

米づくりとおにぎりパーティーを通して、子供たちは「食事の重要性」、「食に対する感謝心」、「食を通した社会性や人権関係の形成」、「食文化の理解」など多くのことを学んだことだと思います。また、記憶に残る体験になったことだと思います。



子育て一口メモ(岡崎光洋氏<臨床心理士・元県教育相談専門委員>の講演より)

○子供に理解させたい「イルカ」

「イ」……嫌な人もいれば、嫌やなときもある(人には嫌な面もある、多面的である、よい面もある)

「ル」……ルールはあるよ、最低限は(あいさつ・返事・後片付け・集合など)

「カ」……感謝しうね、心の中で(例:食べられることへの感謝=食べられてありがたいながらあいつ)

○子供にしつけたい「カタコトネ」

「カ」……買い物(望めば何でも買ってもらえるという感覚を育てないこと)

「タ」……たたく(人を傷つける行為はダメだということを早くからしつけておくこと)

「コ」……言葉遣い(使ってほしくない言葉を使わないように言うだけではなく、ふさわしい言葉遣いを教える)

「ト」……盗る(親や祖父母の財布、引き出しからお金を盗ることなどは絶対にさせない)

「ネ」……寝起きの時間(起きることに力を入れること(睡眠は成長につながる))